

アーバネット 防災プログラム（台風対策）

2019 年、観測史上初めて首都圏を直撃した台風第 15 号・第 19 号の激甚災害により、マンション住民は窓ガラスの破損・浸水・停電等の被害を受けました。そこで、2020 年 1 月、当社開発の投資用ワンルームマンションに台風対策を取り入れた「アーバネット防災プログラム」を策定いたしました。2019 年の台風被害から、強風対策、豪雨対策、停電対策の 3 点を強化しています。気候変動によって発生する台風等の防災対策は、SDGs の達成に貢献するものであります。

アジュールコート

停電対策

▶ 停電時用 足下保安灯を常設（専有部）

停電時に点灯する保安灯の採用

- 周囲が暗くなるとナイトライトとして「電球色」で自動点灯
- 停電すると同時に明るい「白色」で自動点灯
- 非常時の懐中電灯として、コンセントから外して使用可能（約 20 時間以上連続点灯）



ハンディホーム保安灯（コンセント設置タイプ）（パナソニック㈱）

▶ 停電時の備品対策

共用部 1 階に防災倉庫を作り、備品を設置

〈備品〉 スマホ充電機能付手回しソーラー蓄電ラジオ



チャージオ（㈱クマザキエム）

簡易トイレ



サニタクリーン（社会福祉法人東京コロニー）

豪雨対策

▶ 雨水侵入対策の強化（共有部）

基本計画時にハザードマップを確認し、浸水エリア（50 cm以上）の場合、簡易設置型止水板を設置（防災倉庫に保管）

▶ 浸水時に放流できない雨水を一時的に地下ピットに貯留するシステムの採用



Boxwall（NOAQ）

防災倉庫

地下ピット

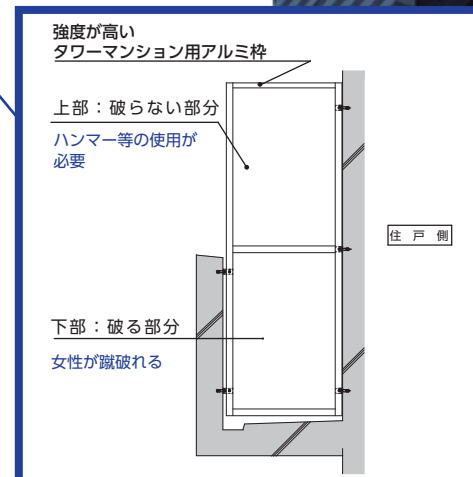
強風対策

▶ 避難隔壁板 及び 隔枠の強化

地上 20mを超えた部分（8 階以上）について、台風による強風で破損しないよう避難隔壁板の上部及び隔枠は、従来の仕様より強化し、隔壁板の下部は、非常用の脱出口のため、容易に破れる強度にとどめています。



8 階以上（高層階）



▶ サッシの耐風圧性能の強化

東京は基準風速 34m/s ですが、鹿児島・鉾子・高知の基準風速 38m/s に耐えられるサッシに仕様をアップ。

※基準風速とは、過去の台風の記録に基づいて計算した、50 年に一度の大型台風の予想最大風速です。国土交通省が計算して、国土交通大臣が定めているものです。

▶ ガラス及び網戸の飛散・脱落対策

- ＜ガラス＞ 防火設備で飛散防止フィルム貼るか、飛散脱落防止が期待できる網入りガラスを採用
※下階にガラスが落ちる可能性がある場合
- ＜網戸＞ 可動網戸が強風時にはずれないように、たて枠ロックタイプ採用

